

第 62 回歩こう会

奥多摩御岳溪谷ハイキング、小澤酒造見学

「多摩川」

今回の歩こう会は青梅から続く奥多摩への青梅線にて御嶽で下車、御岳溪谷の遊歩道を歩いて小澤酒造に至る小旅行です。御岳溪谷を流れる清流は皆さんが日頃から目にする多摩川です。この機会にこの多摩川について事前情報を少々お届けしましょう。

我々の生活の一部とも言える多摩川ですが、実は様々な表情を持つ、とてもユニークな河川だという事が分かります。

1. まずはデータ編です

多摩川の源流：山梨県、埼玉県の境にある笠取山に発し、一之瀬川、丹波川と名前を変えて奥多摩湖に流れ込みます。（奥多摩湖は小河内ダムのダム湖です）

小河内ダムの下流から東京湾に注ぐまでを多摩川と呼びます。

多摩川：138Km の長さを持つ一級河川、全国で大体 20 番目前後の長さですから、それ程の大河ではありません。

* 奥多摩湖（正式名称は小河内貯水池）は今回下車する JR 青梅線御嶽駅から更に 20 分弱の終点駅である奥多摩の先に位置する人造湖です。

* 小河内ダムが 1957 年に建設され、奥多摩湖は上水道専用としては世界最大規模の貯水池となりました。現在の東京の水源地は利根川水系が中心となりましたが、渇水期などには今も重要な役割を担っています。

2. 上流

今回歩く御嶽駅周辺の多摩川上流は御岳溪流と呼ばれ、国の名水百選にも指定されている溪流、清流、です。

ところによって溪流は荒々しく、カヌーによるラフティングの練習などが行われていますが、少し流れが緩やかな場所では溪流釣りを楽しむ釣り人が川の中に入っても安全な場所もあります。

駅名は御嶽ですが、地名（山、町名等）は御岳と二通りの字が使われます。



明確な定義はないようですが、宗教に関わる場合は御嶽と書き、全国にはいくつもの御嶽があります（「おんたけ」と読むケースもあります）。

今回は足を運ぶ計画はありませんが、御岳山は山岳信仰の山でもあります。

余談ですが、昨年のおんたけ会を訪れた高尾山薬王院も山岳信仰の寺で、山岳信仰は神社、お寺を問わずに人々の信仰の対象になっているようです。

世界でもアジア、中南米などおよそ 26 の地域に類似の 山岳信仰はあるようです。

我々が住む都会からわずか数十キロの上流にこのような秘境とも言える溪谷がある事実は驚くべきで、世界中の大都市近郊にこのような溪谷がある例は思いあたりません。

3. 中流

青梅市から先は多摩丘陵と武蔵野台地の間を流れ、我々が住む国分寺周辺ではハケと呼ばれる湧水が至るところにあり、その湧水を集めた野川は多摩川の代表的支流です。



又、羽村で多摩川から取水された水は玉川上水となり、江戸時代の市民の水源地となりました。

多摩川の中流では調布市と神奈川県川崎市の県境を流れ、周囲は主に住宅地になっていますが、農地や果樹園も多く残っています。

4. 下流

東京都大田区と神奈川県川崎市川崎区の境で東京湾に注ぎますが、その左岸には羽田空港があります。

羽田空港の最も新しい第四滑走路は人工島に建設されましたが、多摩川の水流れを妨げないような特殊構造の人工島となっています。



又、多摩川の下流流域は昔学習した京浜工業地帯の中央に位置します。

◎この様に多摩川はわずか 138Km の間に

大都市、東京近郊にも拘わらず溪谷から始まり、水が豊かな住宅街を流れ、最期は工業地

帯をって海に注ぐ、という異なる幾つもの表情を持つ極めてユニークな河川であると言えます。

5. 多摩川の自然と行楽

多摩川は昭和中期までは漁業が盛んでしたが、高度成長期の1970年頃には水質汚染が進み、漁業は衰退してしまいました。

その後水質改善の努力が進み、現在では娯楽としての釣りが盛んになりました。

娯楽という意味においては多摩川競艇も忘れる事は出来ませんし、河川敷の利用と言う意味では昔からファンが集まったジャイアンツの練習場も多摩川沿いにありました（現在は無くなった）。

上流の渓谷ではカヌーを操ってラフティングを楽しむ（トレーニング？）様子や溪流釣りを楽しむ人たちの姿も遊歩道から見る事が出来るでしょう。